

教員年間活動計画ならびに報告

【令和6年度】

氏名	徳永 美紀	所属	一般文科	職位	教授
----	-------	----	------	----	----

職務	項目例	割合【%】	活動内容
教育	授業担当 卒業研究 専攻科研究 授業改善 教材開発 教科書執筆 など	計画	35 英語1(2クラス、週4コマ) 英語表現1(2クラス、週2コマ) リベラルアーツ特論(後期のみ、1コマ) 1年生の英語の授業で、学生の理解を優先しながらも、私が英語で話す割合を増やしたい。
		実績	
研究	自主研究 外部資金研究(科研費ほか) 共同研究 技術相談 論文・解説・著書学会等発表 特許など	計画	15 これまで行っていた中学校での英語教育についての研究は校務とのバランスがとれず難しいため、国際交流または発音教育の効果について来年度研究発表できるよう、準備をすすめたい。
		実績	
学生生活指導	学級担任 学生相談 課外活動指導 コンテスト指導 など	計画	10 弓道部顧問:大会引率の分担等で主顧問をサポートする。 英会話部顧問:短期留学生と英会話部との交流を検討する。
		実績	
校務 / 管理運営	主事, センター長, 室長 学科長, 委員長 学級担任 主事補, センター委員, 室員 委員会委員 など	計画	30 企画主事として担当する(国際交流、男女共同参画、自己評価、広報)校務を遂行し、特にコロナ禍で滞っていた国際交流の派遣および受入れの活発化を目指す。
		実績	
社会活動	学会での活動 公開講座 出前授業 男女共同参画 国際交流活動 学外団体活動 など	計画	10 中学校での英語教育についての研究、およびリベラルアーツ特論で実施しているタスクベース語学学習について研究発表を行う。 企画主事として「高等教育コンソーシアム久留米広報支援部会」などに参加する。
		実績	

教員業務内容報告書

報告者氏名	徳永 美紀	所属	文科	職位	教授	報告年度	令和5年度
-------	-------	----	----	----	----	------	-------

分野	計画		実績		記載事項例
	エフォート	内容	エフォート	内容(計画からの変更点)	
教育	35	<p>担当科目 英語1(4単位)×2学科 英語表現1(2単位) 応用英語1(2単位) リベラルアーツ特論1 TOEIC L&R(1単位) リベラルアーツ特論2 TOEIC L&R(1単位) 実践英語(2単位)</p> <p>低学年では実践に必要な英語の基礎力を学習と活動を通して学び、高学年、専攻科ではTOEICのスコアアップを目指しながら実践的な英語力を身に着ける事を目標とした授業の実施を目指す。</p>	35	計画通りに行った。	担当科目名・ 単位数 卒業研究・ 専攻科研究指 導学生数 教育方法改善 内容
研究	25	コミュニケーションを重視した学習指導要領のもとで、中学校でどのような英語の指導が行われているのかを調査し、本学1年生を含む中学卒業生の英語力への効果や影響について調査する。	15	校務が忙しく、研究の時間を見つけることが困難であったが、以下の学会で発表することができた。 JALT Pan-SIG2023(京都産業大学)、JAAL in JACET 2023(お茶の水女子大学)	論文 著書 総説・解説 学会等発表 特許 共同研究 技術相談 科研費 外部資金
学生生活指導	10	弓道部顧問 英会話部顧問	5	弓道部:南部ブロック予選(八女)、高専大会全国大会(徳島県鳴門)への2泊3日の引率を担当した。弓道場再建の久留米市の説明会、安全祈願へ出席した。スピーチコンテスト(プレゼン部門)の指導を担当した。	クラブ顧問 コンテスト指導
校務・管理運営	20	図書館長 運営委員会委員 リスク管理委員会委員	35	図書館長 企画主事(1月より)	主事 その他の長 学科長 委員長 部会長 主事補等 担任 委員会委員 部会員
社会活動	10	大学英語教育学会 九州・沖縄支部事務局 大学英語教育学会 九州・沖縄支部紀要委員	10	大学英語教育学会の九州・沖縄支部事務局担当者として、春季学術講演会および支部研究大会の運営、広報、ニューズレターの発行などを担当した。また、支部紀要の査読を1本担当した。	所属学会名 学会活動 公開講座 出前授業 男女共同参画 国際交流 学外団体活動

(注) エフォートは各職務にかける(出力×時間)の割合(%)で表示、最小単位を10%あるいは5%とし合計100%となるように記載する。

(注) フォントのサイズは10pt~12ptとし、記入欄の行の高さは記入内容に合わせて変更する。